



プロジェクト
Project
Myougenji

里山で 茶を楽しむ

中国茶作法で明源寺茶を淹れる。明源寺の境内奥に江戸期から守られた茶畑があり、ここで茶を摘む。茶を淹れているのは明源寺の坊守さん。極上の茶をあなたに。どうぞ明源寺にお越しください。

茶葉を摘んで、
茶を作って、
飲む

安政五年、徳川幕府は外貨獲得のためにアメリカ等諸国への茶の輸出など日本国の各藩に茶の木、漆、楮などの商業作物生産を奨励する文書を廻した。江戸老中首座堀田正睦を藩主にいただく佐倉藩柏倉陣屋はこの幕府通達を受けて茶栽培を奨励した。

柏倉は白鷹山系の仏教隆盛とともに寺院が立ち並び平安時代のころから茶栽培が盛んだった。江戸末期のこの年、新たに輸出用の茶栽培に取り組んだが明治初期の数年で途絶えた。大正期、柏倉門伝小学校の校長だった渋谷利雄氏は「新政府が進めた桑栽培に追われて茶木は消えた」と書き残したが、茶の香木は今も里山の村に生きている。

柏倉八幡神社名譽宮司の結城敏雄氏は「明源寺ではお茶を作って檀家の集まりに出していた。若いころに手伝いをしたのでよく覚えていて」と語る。また、貞任橋から東へ行く通り

は垣根のように茶が植えられていたと昔を語る人もいる。

柏倉には茶があった。ならば、お茶を現代に再興しよう、いま、明源寺境内の鳥がさえざる山に茶木は生きている。茶葉を摘んで、製して、茶を楽しもう。

鎌倉時代、仏僧栄西は茶の効能を説いた。源実朝は茶を飲んで二日酔いを覚ました。これも評判のNHK大河鎌倉殿にまつわるエピソード。今なら酔い覚ましどころか、茶カテキンはがんにくく、コレステロールを下げる、抗ウイルスだと、もう体にいいことしかないといわれる。

いいですよ、
楽しんでくださいね

明源寺の柏倉明裕住職は境内の茶畑に立って、にこやかに、こうつぶやいた。「新芽が育ってきました。お茶の葉を摘みに来ませんか。一芯二葉。指先でつまんで山里の英気を茶にしていたたく。富神山の麓でこの茶を飲めば自然の木々、山々と一体になれます」

明源寺で茶を作って飲んでいいのかい？

いいですよ。楽しんでくださいね。

ご住職と坊守さんは笑顔でそう言う。

明源寺はみんなを迎えています。

◎お問合せ 明源寺 023 645・2231

山形県山形市大字柏倉 1060